

# HOPES

ホープス セカンド  
2nd



番外編！

## 災害救助犬になりました

じゃがいもさん

(関沢)



災害救助犬のガウンを身に着けたじゃがいも。8月には、認定試験合格の報告をかねて、村へ里帰りし、同月オープンの道の駅で、勇姿を披露してくれる予定です。

全村避難となった村内で、平成23年6月に生まれた雑種犬「じゃがいも」。預けられた岐阜県のNPO法人「日本動物介護センター（山口常夫理事長）」で災害救助犬の訓練を受け、平成24年秋から、認定試験に挑戦を続けてきました。しかし、要救助者を発見しても吠えることができなかったり、制限時間をオーバーしたり。5回、6回と試験



瓦礫搜索の訓練を行うじゃがいも。認定試験は、原則年2回の開催で、合格率も、約3割という難関です。失敗が続いてもあきらめず挑戦を続けてきたからこそその合格ですね。

に挑みますが、不合格が続きました。それでも「少しずつ成長している」と、山口理事長は訓練を継続。じゃがいもも期待に込めて訓練に取り組んできました。そしてこの6月、11回目の挑戦で、ついに手にした合格。訓練を始めてから、5年の月日が流れていました。

吉報は、山口理事長から、元飼い主の井上キミエさん（関沢）の元へも届きました。井上さんは、「とうとう合格した」と喜びがこみ上げ、心の中で「やった！と叫んだそうです。

村民の愛犬を約50頭受け入れた同センター。飼い主と犬たちが再会できるよう、年に数回の里帰りをを行うなど、心のこもった支援をいただけてきました。飼い主の元に戻った愛犬も12頭を数えます。今回の合格を受けて、「避難解除となった村へ、よい知らせが届けられる」と話す山口理事長。8月には、じゃがいもと一緒に村を訪れる予定です。

### へ編集後記

●「広い！」「時間が止まってるみたい」。6月24日、村内の小学校校舎に子どもたちの声が響きました。この日は、ふるさと教育の二環で、仮設小学校に通う全校生徒が、3校それぞれの校舎を見学しました。震災後、静まりかえっていた学校に子どもたちの姿。「学校に子どもがいる」あたり前の光景に胸が熱くなりました。来年4月からの新しい村の学校にご期待ください。（木幡）

●「田植え踊りに加わっている中学生が、この踊りも中学校で教えてほしいと言ったよ」「今年はや盆踊りを復活させるよ。離れている人も来てくれるといいなあ」「このボランティアは、できる範囲で続けたいの。やめるのはいつでもできるし、なくすのは簡単。だからこそ…ね」。何気ないことのように語る先輩方の言葉にしばれます。心の糧にしています。（星）



飯舘村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。